

行事報告

文部科学省特別経費事業
広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 第三回シンポジウム開催

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授

平成 25 年度より、当研究所と本学言語文化研究科が主となり、文部科学省特別経費事業「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」を実施しています。本事業は広域アジア地域における①大学・研究機関、企業とのネットワーク構築、②接合技術基盤の構築、③カップリング・インターンシップ（CIS）の実施（文理＋海外連携大学融合型）を 3 本の柱として取り組んでいます。同事業の一環である本シンポジウムも今回は第三回目となりました。本年は「グローバル活動における多様な知の“協奏”と”共創”ー人材の育成及び活用をめぐる各界の動きー」と題し、2016 年 1 月 28 日（木）にステーションコンファレンス東京にて開催、企業、教育機関、自治体など 80 名弱の参加がありました。

第一回、第二回で浮上した課題を受け、第三回は教育機関と企業間で具体的な議論を深める場にすることを目的としました。基調講演では、カリフォルニア大学名誉教授、大阪大学特任教授 JOHN INO 氏より、グローバル人材に欠かせない基礎力である“Critical Thinking”の必要性と教授法についてご講演頂きました。更に基調講演として、長崎大学教授、タイ王国工業省政策顧問、タイ王国公益法人お互いフォーラム副理事長兼共同代表、松島大輔氏からは、自らイノベーションを起こせる「トランスナショナル人材」育成の重要性が述べられました。特別講演では、日産自動車株式会社生産企画統括本部 APW推進部アライアンス・エキスパートリーダー、市川 博氏より、NISSAN PRODUCTINO WAY を徹底した社内におけるグローバル人材育成についてご紹介頂き

ました。シンポジウム後半では株式会社キャステム代表取締役社長、戸田拓夫氏より中小企業における海外進出の困難、それを乗り越えて来たご経験についてご講演頂きました。その後本事業の CIS 活動について、本学大学院言語文化研究科助教、藤原邦子氏、更に CIS インドネシアとミャンマーにそれぞれ参加した寺田しおりさん、植田一史さんより運営、経験、自己の変化などについて講演がありました。

パネルディスカッションでは新たに福岡大学・昭和大学客員教授、グローバル人材育成教育学会会長、小野 博氏と本学外国語学部長、東 明彦氏をご参加の上、求められるイノベーターとしての能力、企業が教育機関に求める教育などについて議論が交わされました。企業からは英語、コミュニケーション、交渉、自己の役割を見つける力、ものづくりに対する意欲と技術の教授について教育機関で徹底して欲しいとの意見が出されました。その上で、教育機関側からは、変化の速いグローバル教育において企業が求めるものを教員が敏感に理解する必要がある、今正にその時期であるとの発言もありました。

今回のシンポジウムを契機に、教育機関と企業との密接な対話の場を更に設定していく必要があると考えています。

